

## 九賽溝・黄龍・紅原草原紀行

TC680523 樋口壯太郎

6月下旬、SUS社の龍吉生董事長からの国際電話で7月下旬に九賽溝と紅原草原に家族旅行をしようとの誘いがあった。隣には都市建設研究院徐文龍院長がいるらしい。7月下旬は大学の前期試験中で無理だと伝えると、試験の終わりはいつかとの問い。8月5日までと伝えると6日から予定してくれとのこと。九賽溝はいつか行ってみたい

また必ず家族で来ることとの条件付、息子は4月から京都大学病院にPD(ポストドクター)で赴任したばかりで、無理なので家内と二人で参加することにした。早速、福岡～上海、北京～福岡の航空券の予約を行った。

### 台風接近

旅行の予定日の8月6日はあつとい



と思っていたので二つ返事でOKする。数日後、早くもメールで旅程表が送られてきた。上海～成都～九賽溝～成都～北京の僕にとっては大移動の旅程。

う間にやってきた。ところが台風9号接近でギリギリまで飛ぶかわからない中、電話で中国国際空港CAに確認をとる。何とか飛びそうだとい

うので13:00タクシーを呼んで福岡空港国際線へ、チェックインのあとラウンジで出発まで過ごす。CA 916 便は15:25に離陸、ほぼ定刻の16:10に上海空港に着陸する。台風の影響は全く感じられない。入国手続きを済ませ、スーツケース2個を受け取り、外に出ると龍君の運転手の楊さんが出迎えてくれた。BMWのワゴンに乗り、約1時間、上海市内の花園酒店インターコンチネンタルホテルオークラに到着。途中、龍君より電話で19:00に楊さんが再度迎えに来るとのことで一緒に食事をすることに。車で15分のレストランで龍家族と合流。奥さんと2人の子供とは初対面、2人の子供は日本語、英語、中国語ができるバイリンガル。性格も素直で良い家庭を想像できる。少し遅れて旧知の上海市の陶淵局長が合流。食事を共にする。

ここで龍君より明日7日は台風の影響で10:00に空港が閉鎖になるため急遽、武漢を経由して九賽溝空港に行くことになったと告げられる。

朝6:30出発なので早々に就寝。6:30に楊さんがホテルに迎えに来る。雨は降っていないものの風が強くなっている。空港で龍家族と合流。空港で軽い朝食。8:00の中国東方航空で重慶に向かう。

## 重慶

上海から重慶までは約2時間半、重慶は僕も初めての都市で揚子江の上流に位置する人口3000万人の内陸の大都市。半日観光コースのマイクロバスを借り、市内観光を行う。磁器

口という街を散策、街中は横浜の中華街のような感じで道路の両端に様々なお店が連なり、すごい人で混み合い、エネルギーを感じる。中で飴を餅のように杵で突く実演販売のお店がいくつかあり、川崎大師の咳止飴を切る光景を思い出す。昼は市内で重慶の料理を楽しむ。重慶の料理は四川料理で唇が痺れた。日本で食べる四川料理とは辛さのレベルが異なる。早めに空港に到着、少し時間を潰し、17:20、CZ8167で九賽溝空港に向かう。



重慶の飴つき風景

## 九賽溝

九賽溝には19:00到着、標高3500mの高地の空港のため長そでに着替える。空港には龍君のCDM事業のパートナー企業の劉女史が出迎えてくれる。ホテルまでの車中、チベットの少数民族、キョウ族の色とりどりの旗が見られる。幸運をもたらす旗とのことで各家には必ずと言っていいほどはためいている。



いたるところで見られるキョウ族の旗

19:00 過ぎにインターコンチネンタルホテル、九寨天堂大酒点にチェックイン。豪華なリゾートホテル。ここで徐文龍院長、旧知の林さんと合流。20:00 遅い夕食を食べる。22:00 早々に部屋に戻り、シャワーを浴びて就寝。館内に温泉があるが入れず。家内が夜、頭痛を訴える。7:00 朝食、朝食はリゾートホテルに似つかわしくないひどい朝食、早々に切り上げ、ホテル内の公園を散策する。また部屋から見える原生林と山の風景を写真に撮る。9:00 ホテルを3台の車で出発。九寨溝に向かう。九寨溝は透明度の高いきれいな湖で湖の他、滝等沢



九寨溝の湖の一つ

山のポイントがありかなりの距離を歩く。かなりの距離を歩いたにもかかわらず、美しい風景に疲れも吹っ飛ばす。

### 全住高原紅觀看大型チベット歌舞晚会観劇

昼食は辛い四川料理。さらに観光を続け、18:00 夕食。夕食後、劇場に移動し「前往高原紅觀看大型チベット歌舞晚会」を観劇、前半は劇団四季のライオンキング風だったが大型の劇場で馬の疾走を含む壮大な舞台に大満足。終了後、舞台後ろの壁が開くと外に通じており、お客は舞台を通過して裏庭に、裏庭ではキャンプファイヤーと日本の盆踊りのような感じの地元の踊り。21:00 過ぎにホテルに戻り就寝。夜半に家内が頭痛を訴えるが暫くすると良くなる。毎晩2:00 位から頭痛がするらしい。



ライオンキング風歌劇

### 黄龍風景区と高山病

7:30 ホテル出発、黄龍風景区に移動する。途中、ミン山という5588mの山をバックに撮影。9:00 現地到着、ロープウエーで途中まで登り、

ここから徒歩移動。かなりの距離に家内がへたばる。途中、龍君が家内を酸素ステーションに連れて行く。酸素吸入でかなり気分がよくなった模様。あと一息で目的地のところで今度は龍君の奥さんが酸素吸入。ガイドが荷物を預かり、ここからは荷物なしで登る。家内がへばるが何とか目的地へ、ここは別世界で疲れも吹っ飛ぶ。真っ青な湖にしばし見とれる。家内も大満足。皆で記念撮影する。下山途中、龍君の娘が体調不良を訴える。どうも高山病とのこと。携帯用酸素吸引等で回復し



黄龍風景区

たと思ったら今度は龍君が高山病で真っ青になる。休みながら下山。途中雨が降りそうになるが何とか持つ。これまでの家内の頭痛も高山病が原因のようだ。

このような中で山に荷物を運ぶ、剛力の人たちと何度も遭遇したが背中

の重い荷物の下につっかい棒を入れて立ったまま休憩する姿に仕事とはいえ大変だなと思った。



黄龍の剛力

下山後、昼食、田舎のレストランだがここは薄味でこれまでの辛い四川料理から解放され美味しかった。デザートに出されたブドウもおいしかった。

ここから高原の大草原の風景を見ながらホテルに移動。車窓からはどこまでも続く大草原が続き、牛、羊、馬が放牧されている。この地方の牛は黒毛で毛が長く、小柄で一見、アメリカバイソンを小さくした感じ、草原にはモンゴルのパオに相当するテントが点在移動しており北海道をはるかに凌ぐ広さにただただ驚く。18:00ころチベット風ロッジが立ち並ぶホテルに到着。ここはこの辺で唯一のリゾートホテルだが3階建てで、エアコンはない。また部屋に酸素ボンベが置いてある。ホテル内で夕食、シャワーを浴びて就寝。やはり2:00過ぎに家内が頭痛を訴える。止むなく部屋に置いてある酸素ボンベからの酸素吸引で良くなるが4:00頃再度、頭痛

で二本目の酸素吸引。朝、龍君、徐院長が協議して急遽、もう一泊の予定を変更し、今日中に成都に入ることに決定。



道路に出てきた牛

### 紅原草原

10:00 ホテルを出て紅原草原の花湖風景区に移動する。ここは大草原のなかの湿地で7月は花が咲いて綺麗とのこと。このため最初に誘われた7月下旬の意味が良く分かった。8月は緑の草が美しい。家内と二人先に進み、終点の木陰で休んでいると日影は涼しく気持ちが良い。乗馬に興ずる地元の子供などを見て皆の到着を待つ。



どこまでも続く大草原

ここで乗馬の予定だったが成都に向かうことになったので取りやめ。動物好きの家内ががっかりする。

### 成都、パンダセンター

16:50のCA4478便で九寨溝空港から成都に向かう。成都までは約40分のフライト。ホリデイ・インにチエ

ックイン。久しぶりの洋風ホテルに一安心。夕食は近くのレストラン、帰りは徒歩でホテルに戻る。

翌日は洋風のビュッフェスタイルの朝食に家内も満足。朝食後、龍家族とパンダセンターに向かう。高山病はウソのように無くなる。パンダセンターは四川大地震の時に被災して移転したらしく、少し迷う。道路は前日の雨でぬかるんでいる。パンダセンターに到着、電気自動車で園内を巡るが蒸し暑い。パンダも室内のエアコンの効いた部屋にいた。パンダの赤ちゃんや沢山のパンダを見られて満足。ここで龍家族とお別れ、龍家族は上海に戻るとのこと。龍君が成都空港まで送ってくれる。空港で徐院長、林さんと合流。



成都のパンダセンター

### 北京

15:00のCA4109便で北京に移動する。

北京までは2時間半、北京で荷物が出てこず心配するが遅れて出て来て一安心。ここで卒業生の高海京君が出迎え、北京市内に入り、インターコンチネンタルアライアンスホテルにチ

エックイン。オリンピック会場、鳥の巣近くで部屋はデラックススイート。あまりの豪華さにびっくりする。夕食は「道楽」というかに道楽を真似た日本食で刺身、テン普拉、豆腐、枝豆、すき焼き、蟹、寿司と食べきれないほどの量。満腹になる。ホテルに戻り、メールチェックを行い入浴、就寝。

### イワ園

6:30朝食、8:00高君と同期の女性がホテルに出迎え。イワ園に行く。イワ園内見学、光緒帝、西大後の別邸。時間があるのと暑いので途中でお茶を飲む。12:00都市建設研究院に移動、7月に移転したばかりとか、除院長が出迎え、2階のレストランで山東料理を食べる。シェフも同席、家内が野菜で作った鳥の彫刻に感心するとシェフが小麦粉で作った人形をプレゼントしてくれた。



小麦で作られた人形

そのあと院の見学、まず11階の院長室、環境関係の部署の見学、廃棄物のみで60名以上のスタッフ。5階から11階までに約700人、14か所の支店を併せると1200人の規模。

午後は買い物、まず北京同仁堂で牛黄清心丸を購入する。つぎに雑貨ビルに入り、景泰藍モドキを10個購入する。さらに琥珀のお店に入り、琥珀のペンダントを購入する。17:30ビルが閉まるので外に出て地下駐車場から車が来るのを待っていたら、女性が車にひかれて大騒ぎとなる。運転しているのも女性だが車から降りようとしぬのにさらにびっくりする。警備員が轆いた車に押し込み多分病院に行ったのだろうか？我々は宿泊しているホテルの近くのパンゲーゼブンスターホテル6階で夕食。帰路は徐院長と徒歩で鳥の巣、ウォーターキューブ等を見学しながらホテルに戻る。

### 水の万里の長城

8:00ホテルに高君と劉さんが迎えに来る。今日は水の万里の長城に案内してくれるとのこと。曇り空というより霧がかかったような天気の中、ダムのため一部水没したところにある長城を足こぎボートで見学。高君と運転手が漕ぐ。これまでの山の長城と異なり、小規模だがなかなか面白い光景



水の万里の長城

であった。予定より遅れて13:30

ころ北京に帰る。昼食後は徐院長自ら天安門を案内してくれる。汗びっしょりになりながら一生懸命案内してくれる姿に家内も敬服する。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉を引き合いに出し、感心しきり。夕食は全ジュ徳という北京ダックのお店に行く。ここはかつて海部首相等が来店した名店の特別室で土曜日なので1階2階は行列を作って並んでいるのにここは広い部屋の貸し切り。2匹のダックの実演調理等を楽しむ。食後、少し歩いて街並みを見学してホテルに戻る。

### 帰国

いよいよ帰国。8:55のCA953便に乗るため6:30徐院長と高君が空港まで送ってくれる。大連までは国内線、大連で出国手続きを行い、福岡に向かう。約30分遅れで14:45無事福岡空港に到着。15:00過ぎに自宅に到着した。今回の旅行は8泊9日と中国にしては長い旅であったが、良き友人との交流、美しい九寨溝と黄龍、成都のパンダ等々、命の洗濯をした良い旅であった。



旅の仲間 左から林氏、筆者、徐院長、龍董事長